

所属・資格 哲学科・准教授

申請者氏名 長綱 啓典

研究課題		ライプニッツのルイ 14 世批判
報告の概要	研究目的 および 研究概要	従来ライプニッツ研究の分野でほとんど考察されることのなかった G・W・ライプニッツのルイ 14 世批判文書「いともキリスト教的な軍神」(Mars christianissimus, 1684) の内容を明らかにする。その際、ライプニッツの同時代の他の著者たちによるルイ 14 世批判文書とライプニッツの文書を比較することにより、後者の議論の特殊性を明らかにする。
	研究の結果	上記のライプニッツの文書「いともキリスト教的な軍神」について精読を完了することができた。その結果、ライプニッツの文書の中に聖書からのきわめて多くの引用があることが確認された。P・ライリーはこれをライプニッツによる「ボシュエのパロディー」と解釈しているが (Leibniz, <i>Political Writings</i> . Edited by Patrick Riley. Cambridge, 1988)、むしろマキャベリズムに対する批判として解釈する余地が認められることが明らかとなった。
	研究の考察・反省	今年度はライプニッツのテキスト読解に終始したため、同時代の他の著者たちによるルイ 14 世批判との比較をすることができなかった。次年度はこの課題に取り組みたい。その際、上記の通り、ポイントは「聖書」からの引用の意味を明らかにすることにあると思われる。そのことがタイトル中の「いともキリスト教的な」(christianissimus) という形容詞の意味を明らかにすることにもなる。こうした観点からすると、比較対象として、Nedham の手になる 1678 年のパンフレット「いともキリスト教的な者はキリスト教的になる必要がある」(Christianissimus christiandus) が適切であると思われる。
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所	研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	<p>※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。</p> <p>上記の研究に関して、直接的な成果はなかった (上述の通り、ライプニッツの文書の読解までしか完了しなかったため)。</p> <p>間接的な成果としては、以下の通り。 Paul Rateau, <i>Leibniz et le meilleur des mondes possibles</i>. Ckassiques Garnier, 2015 を翻訳 (共訳)、2022 年に知泉書館より出版予定。 Annette Antoine, Annette von Boetticher, <i>Leibniz für Kinder</i>. Olms, 2008 を翻訳 (全訳)、現在出版社を検討中。</p>